

世界が進むチカラになる。



ASEAN5 景気概況 (2023年12月)

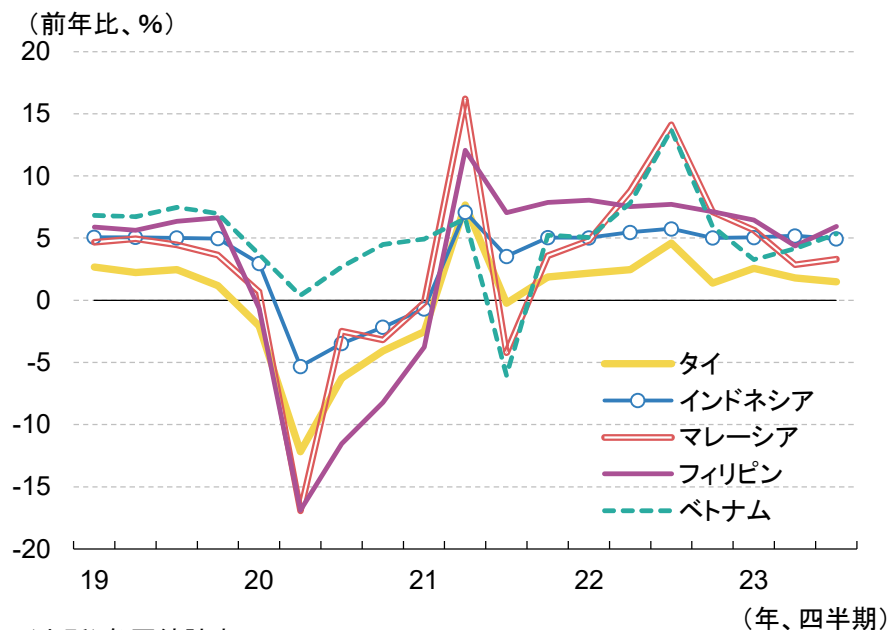
2023年12月7日

調査部 研究員 井口るり子

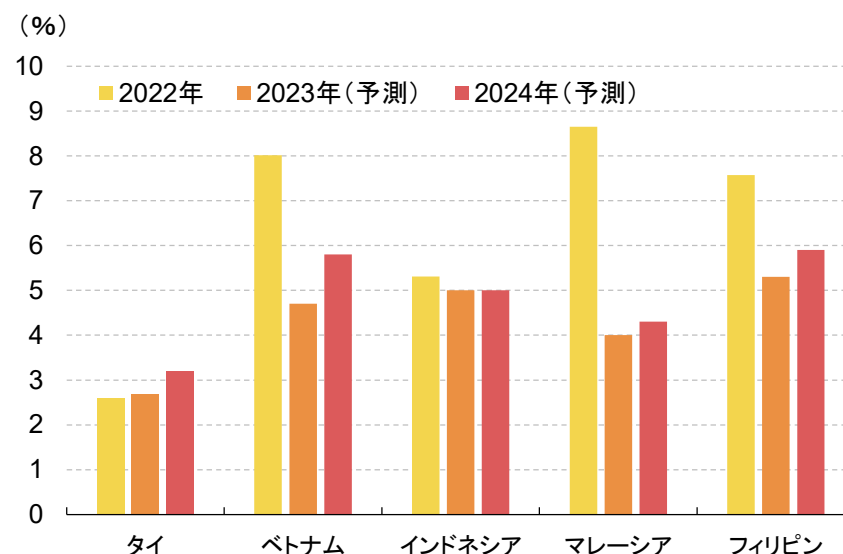
【ASEAN5】景気は堅調

- ASEAN5の7～9月期の実質GDP成長率はベトナム、フィリピン、マレーシアで4～6月期から加速、タイ、インドネシアでは減速したが、総じて堅調に推移している。いずれの国でも外需低迷や資源価格の下落により輸出の減速や減少が続いているが、内需は底堅い。先行き、景気は堅調に推移するとみられるが、中国経済の低迷や世界的な財需要回復の遅れが下振れ要因となろう。
- 10月にIMFが公表した見通しによれば、2024年のASEAN5の成長率は、インドネシアを除く4ヶ国で23年から加速が予想されている。サービス業の回復に加え、世界的な財需要低迷が緩和され、輸出の回復が期待される。

実質GDP成長率



実質GDP成長率(IMF見通し)

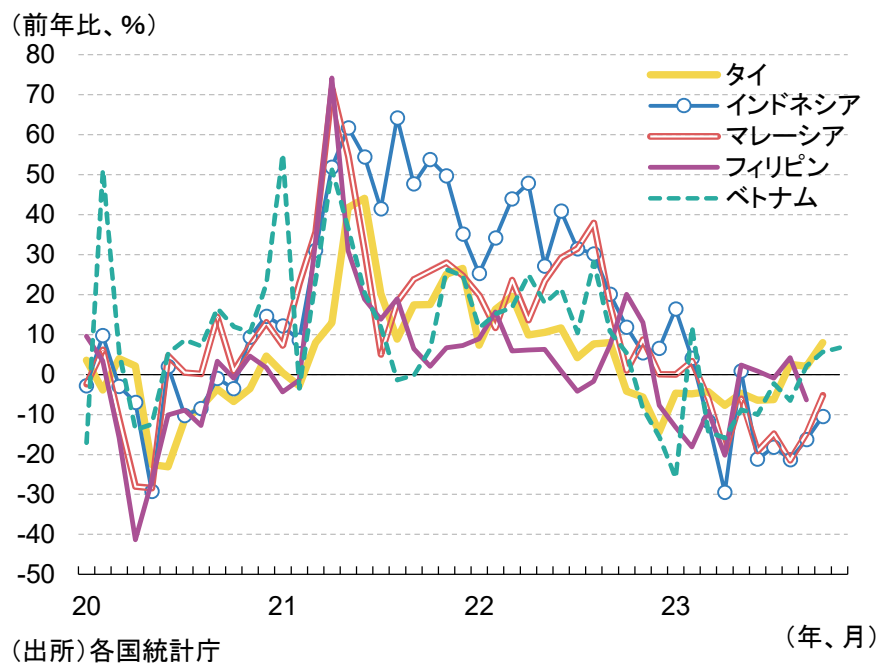


(注) 2023、24年はIMFによる予測値
(出所) 各国統計庁

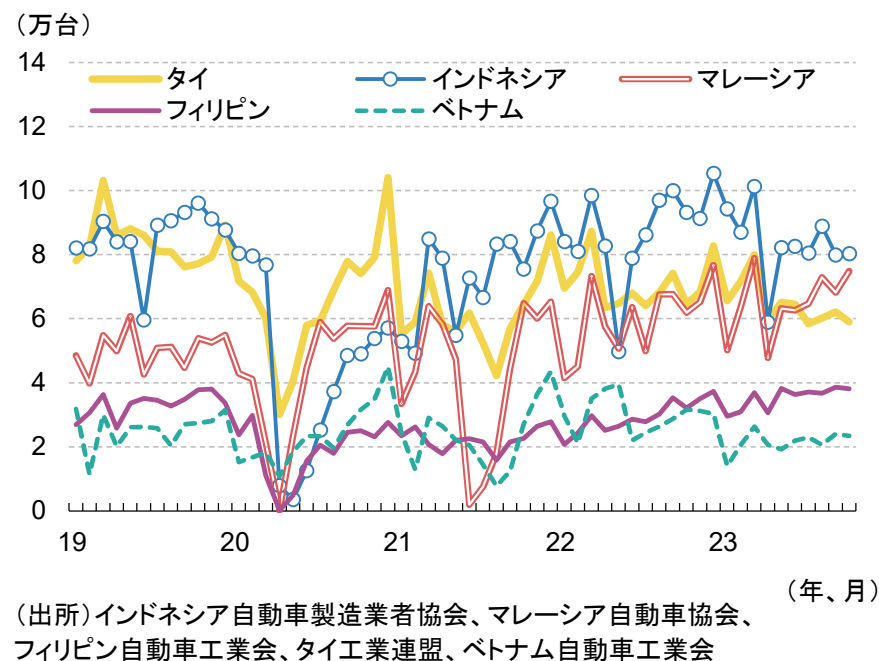
【ASEAN5】輸出は底入れの兆し、自動車販売は好不調が分かれる

- 10月の輸出は公表されている4ヶ国のうち2ヶ国で前年比増加、2ヶ国で減少幅が縮小するなど底入れの兆しがみられる。タイとベトナムでは半導体を含む電気機械や電話部品といった主要品目で回復が続いている。また、資源輸出国のインドネシアとマレーシアでは引き続き資源価格の下落が全体を下押ししているものの、前年比マイナス幅は縮小している。
- 自動車販売台数は、タイやインドネシアでは金利上昇やローン審査の厳格化を背景に低調が続いた。一方、マレーシアやフィリピンでは普及率がまだ十分には高くないこともあり自動車への需要は依然として底堅い。

各国の輸出(米ドル、前年比)



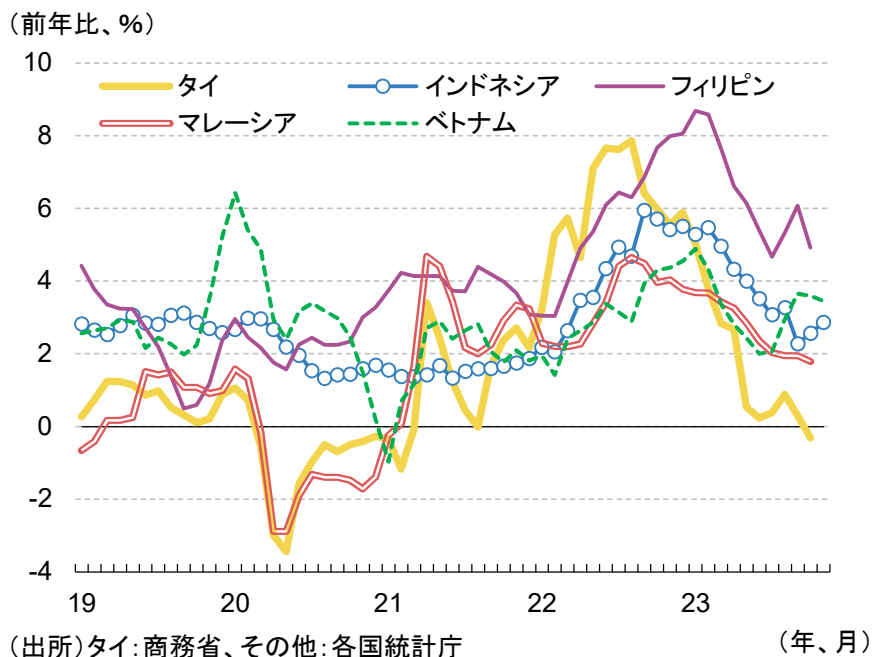
自動車販売台数



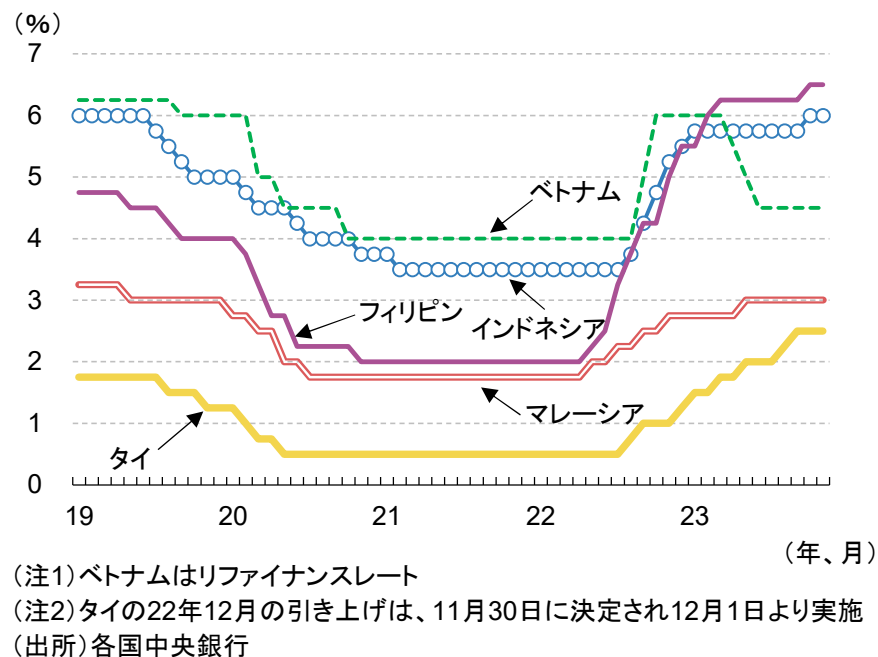
【ASEAN5】物価上昇率は鈍化、政策金利は据え置き

- 10月の消費者物価上昇率はインドネシアを除く4ヶ国で鈍化し、均した動きも減速傾向が続いている。タイでは電気料金の引き下げなどもあり、総合で-0.3%と26ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。一方、インドネシアでは食品価格が上昇し2ヶ月連続で加速した。
- 各国の金融政策をみると、11月はタイで2022年5月以来、9会合ぶりに政策金利が据え置かれた。また、インドネシアや10月下旬に緊急利上げを行ったフィリピンでも、11月は政策金利が据え置かれた。為替相場の安定、インフレ鈍化、米国の金利据え置きなどが政策判断の背景にあるとみられる。

消費者物価指数(総合)



政策金利

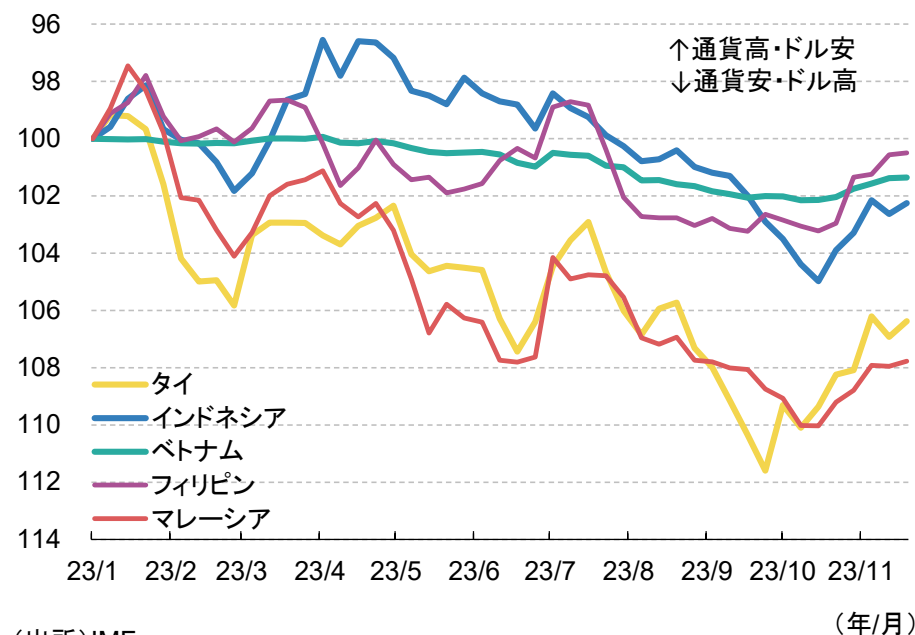


【ASEAN5】為替、株価とも上昇

- 11月の各国通貨の対ドルレートは、5ヶ国全てでドル安・自国通貨高となった。上旬～中旬に公表された米国の雇用統計や消費者物価統計が景気や物価の落ち着きを示す内容であったことから、米国の利下げ観測が強まり、ASEAN各国通貨の上昇につながった。
- 11月の株価は10月末と比較するとタイを除く4ヶ国で上昇した。米国のインフレ鈍化を背景に米国金利が低下し、アジア株への資金流入につながった。中国景気の先行きへの懸念から弱含む場面もあったが、月間を通じて上昇基調で推移した。

為替相場

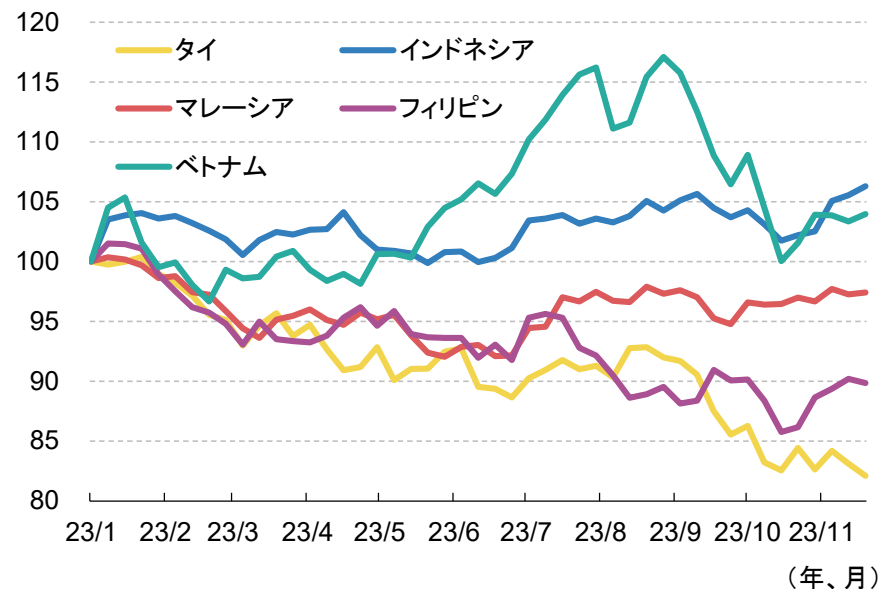
(2023年1週目=100)



(出所) IMF

株価

(2019年=100)

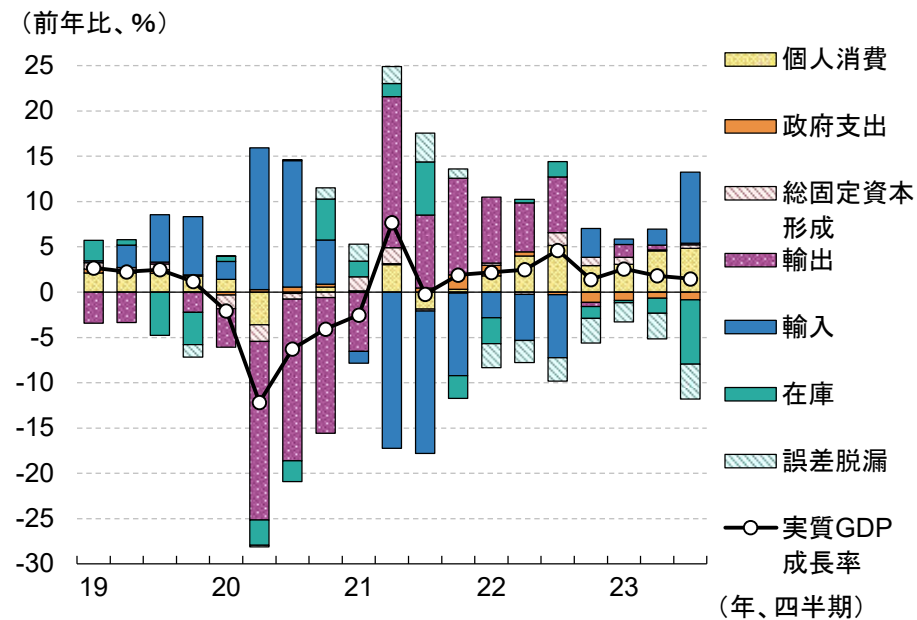


(出所) 各国証券取引所

【タイ】景気は堅調、輸出が回復

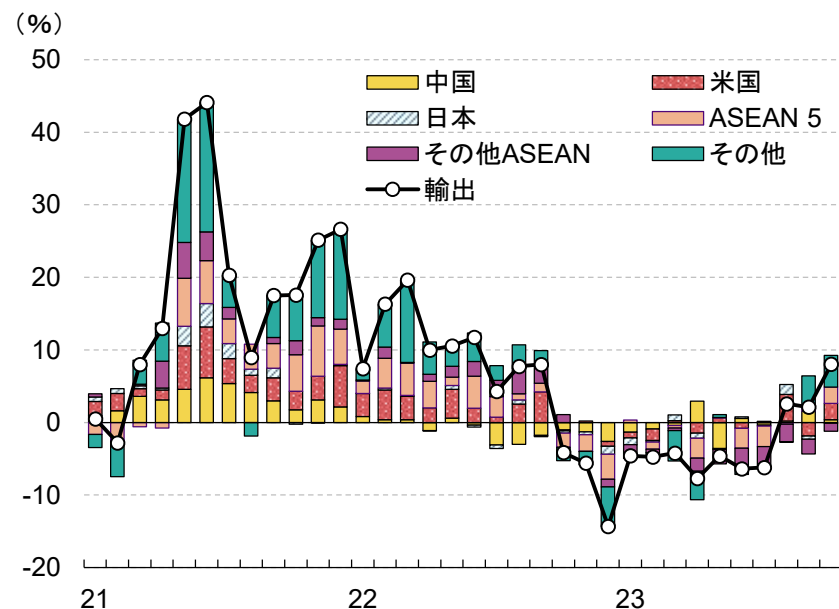
- タイの2023年7~9月期の実質GDP成長率は+1.5%（前年比、以下同じ）と2期連続で減速した。インフレの鈍化などを背景に個人消費(+8.1%)が堅調に推移した一方、輸出(+0.2%)は財輸出(-3.1%)が減少したほか、サービス輸出(+23.1%)も鈍化した。
- もっとも、貿易統計によると、10月の輸出金額は+8.0%と3ヶ月連続で増加し足元で回復に転じている。半導体の輸出が好調な米国向けに加え、農産品の輸出が拡大している中国向けも増加した。

実質GDP成長率



(出所)タイ国家経済社会開発委員会

輸出金額(貿易統計、国別)

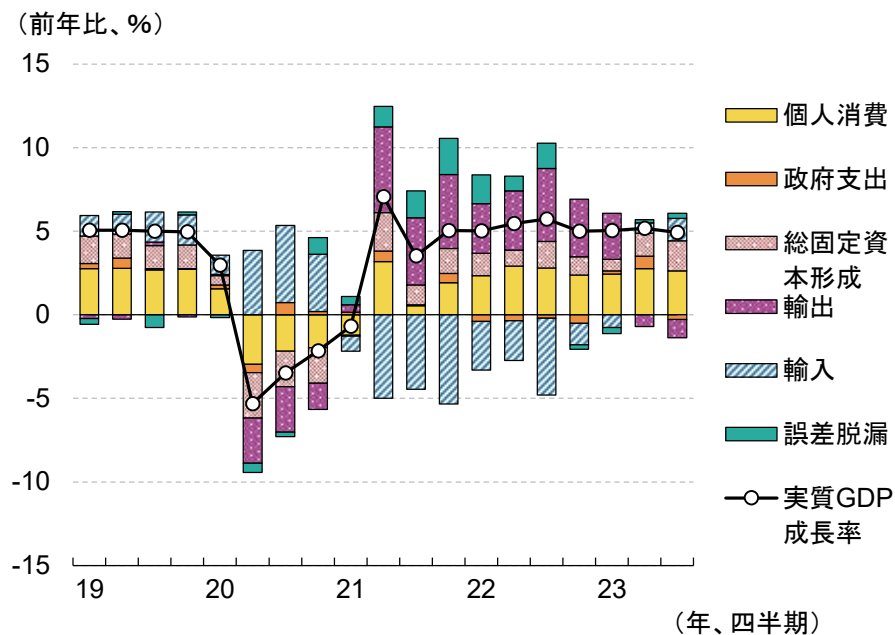


(出所)タイ商務省

【インドネシア】景気堅調も、消費者マインドは弱含み

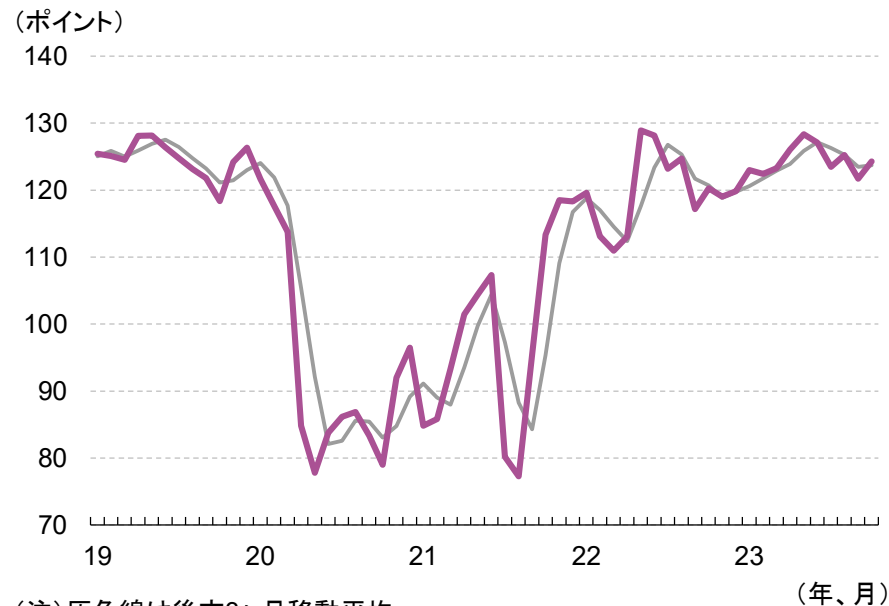
- インドネシアの7～9月期の実質GDP成長率は+4.9%(前年比、以下同じ)と堅調が続いている。個人消費(+5.1%)が堅調を維持したほか、総固定資本形成(+5.8%)も建設投資を中心に伸びが加速した。一方、資源価格の下落と世界需要の減速から輸出(-4.3%)が一段と減少したことに加え、政府支出(-3.8%)が減少し、全体を押し下げた。
- もっとも、消費者信頼感指数は10月こそ前月から2.6ポイント持ち直したが、5月をピークにやや弱含んでいる。金利上昇や食品価格の上昇加速が消費者マインドを下押ししているとみられ、個人消費の下押し要因となる可能性がある。

実質GDP成長率



(出所)インドネシア中央統計庁

消費者信頼感指数

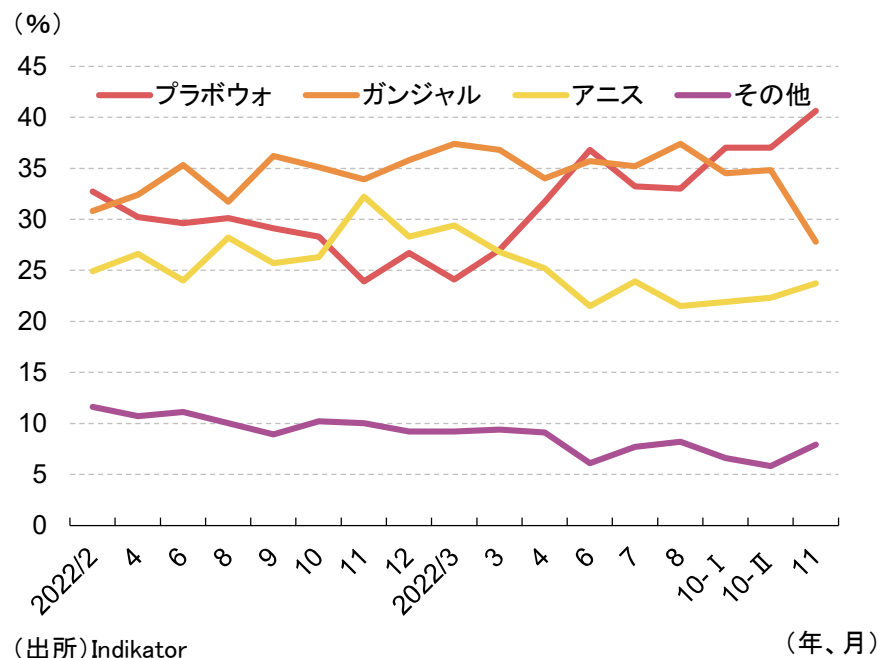


(出所)インドネシア中央銀行

【インドネシア】大統領選挙～プラボウォ氏がやや優勢か

- 11月28日、2024年2月の大統領選挙の候補者による選挙活動が始まった。最新の世論調査ではプラボウォ氏が40.6%の支持を得てやや優勢だが、2月の大統領選では決着がつかず、6月の決選投票にもつれ込む可能性が高いとの見方が支配的である。
- ジョコ大統領は高い支持率を背景に動向が注目されているが、今のところ出身母体の闘争民主党(PDIP)推薦のガンジャル氏ではなくプラボウォ氏を支持しているとみられる。
- 選挙戦では首都移転や資源輸出などが争点になるとみられ、各候補の主張が注目される。

世論調査結果



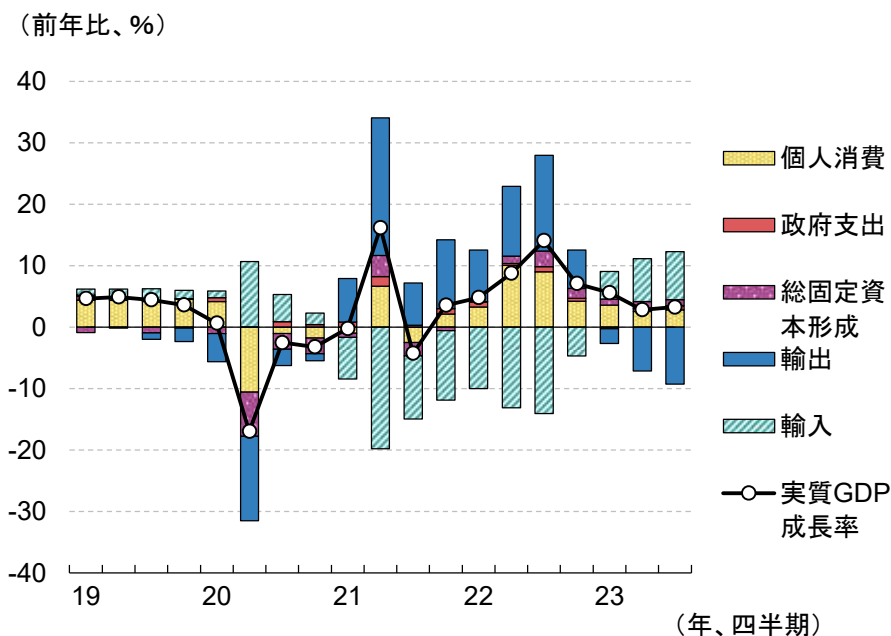
正・副大統領候補ペア

大統領	副大統領	特徴
プラボウォ <ul style="list-style-type: none"> ■ 国防大臣 ■ 2回の大統領選出馬経験 	ギブラン <ul style="list-style-type: none"> ■ ジョコ氏の長男、36歳 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若年層が支持 ■ ジョコ氏の後継として支持を集める ■ ギブラン氏は闘争民主党(PDIP)離脱か
ガンジャル <ul style="list-style-type: none"> ■ 一般家庭出身の庶民派 	マフッド	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者層が支持 ■ 闘争民主党(PDIP)推薦
アニス <ul style="list-style-type: none"> ■ 政治学者 	ムハイミン	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジョコ氏の政策を一部批判

【マレーシア】実質GDP成長率はわずかに加速、輸出は回復の兆し

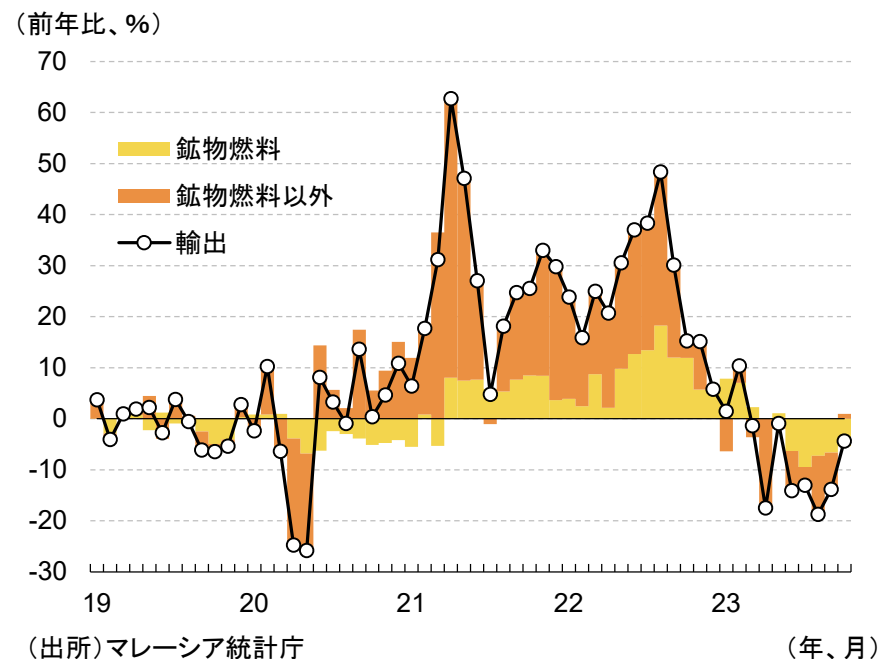
- マレーシアの2023年7～9月期の実質GDP成長率は+3.3%（前年比、以下同じ）と4～6月期からわずかに加速した。輸出（-12.0%）は資源価格の下落を背景に財輸出（-16.0%）の減少幅が拡大し大幅マイナスとなった。一方、雇用環境の改善を背景に個人消費（+4.6%）が底堅く推移したほか、固定資本形成（+5.1%）も堅調を維持した。
- 貿易統計によると、10月の輸出は-4.4%と減少したものの、減少幅は縮小が続いている。資源価格の下落を背景に鉱物燃料の輸出は減少が続いているものの、鉱物燃料以外の財に限れば+1.2%と増加しており、輸出には回復の兆しがみられる。

実質GDP成長率



（出所）マレーシア統計庁

輸出金額（貿易統計）

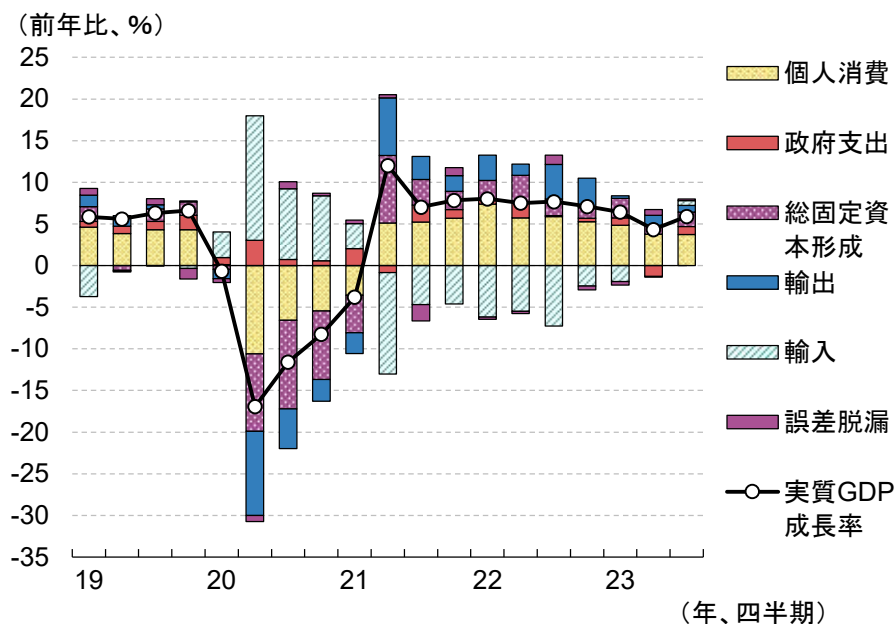


（出所）マレーシア統計庁

【フィリピン】実質GDP成長率は加速、インフラ整備が進む

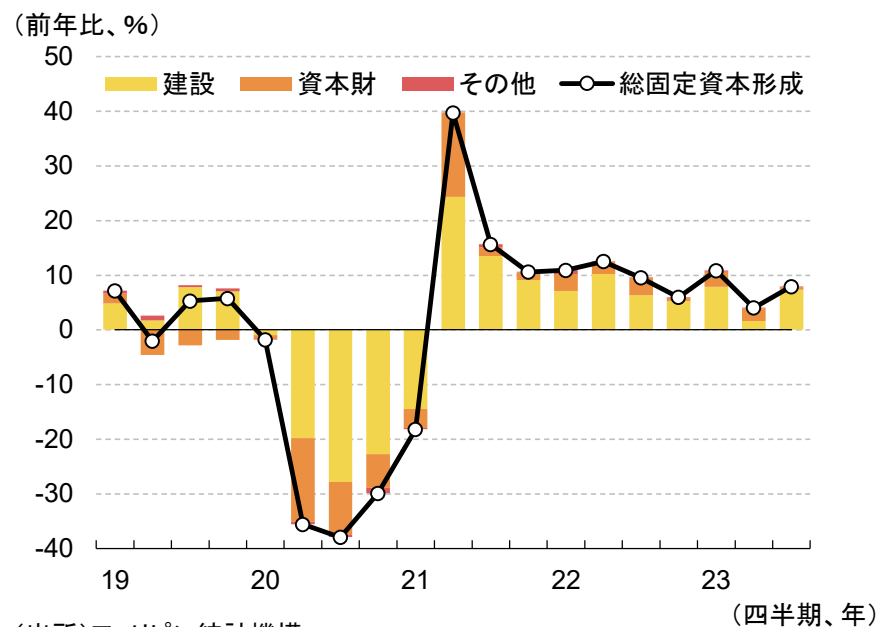
- フィリピンの2023年7～9月期の実質GDP成長率は+5.9%（前年比、以下同じ）と前期から加速した。個人消費（+5.0%）および輸出（+2.6%）が減速した一方、4～6月期に前年の選挙関連支出の反動で落ち込んだ政府支出（+6.7%）が増加に転じたほか、建設投資が好調な固定資本形成（+7.9%）が加速し、全体を押し上げた。
- 7～9月期の建設投資（GDPベース）は+12.4%と4～6月期から加速した。マルコス政権が重要政策に掲げるインフラ整備計画「ビルド・ベター・モア」が景気回復を下支えしている。2024年予算でも鉄道や地下鉄の新設、空港整備などのプロジェクトに予算が割り当てられており、建設投資は今後も拡大が見込まれる。

実質GDP成長率



（出所）フィリピン統計機構

総固定資本形成の内訳

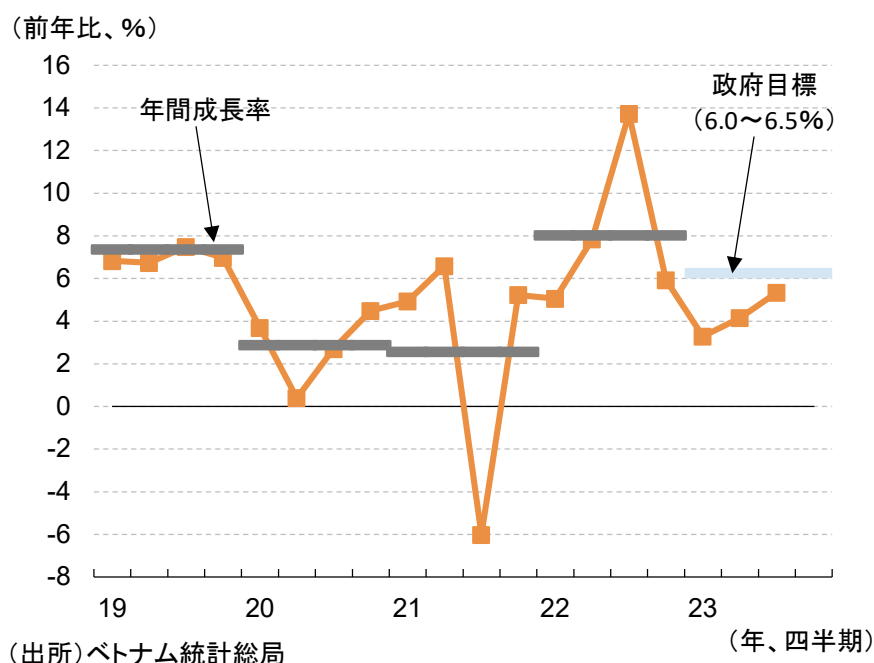


（出所）フィリピン統計機構

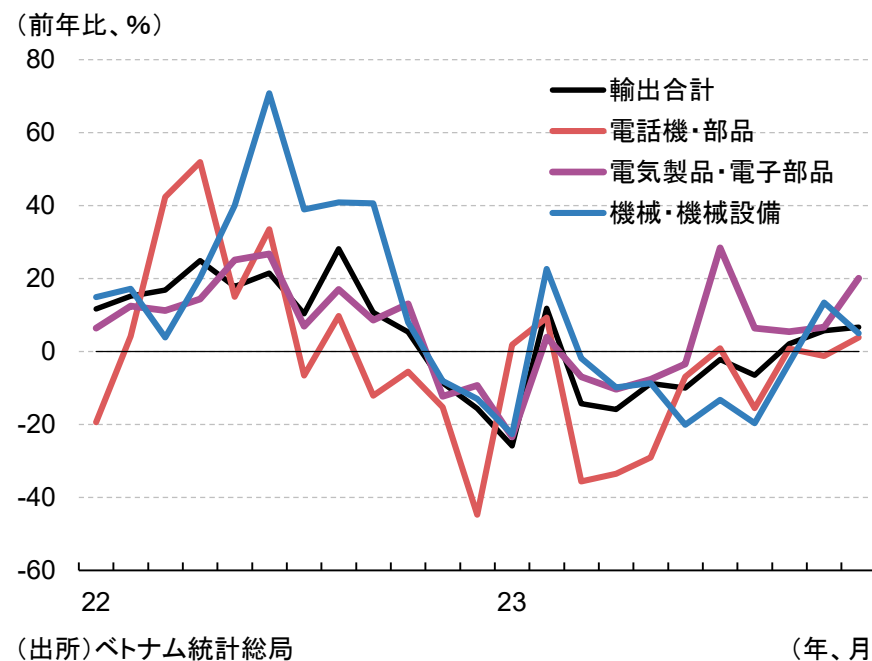
【ベトナム】実質GDP成長率は加速、輸出は底入れの兆し

- ベトナムの2023年7～9月期の実質GDP成長率は+5.3%（前年比、以下同じ）と4～6月期から加速した。もともと、政府の年間成長率目標である6.0～6.5%には三四半期連続で届かず、鈍い動きが続いている。産業別ではサービス業（+6.2%）が前期から横ばいとなった一方、製造業（+5.6%）の伸びが拡大し、全体を押し上げた。
- 貿易統計によると、11月の輸出金額は前年比+6.7%と3ヶ月連続で増加した。主要品目の動向をみると、「電気製品・電子部品」（+20.2%）の増加が続いているほか、回復が遅れていた「電話機・部品」（+3.9%）や「機械・機械設備」（+5.0%）でも持ち直しの動きがみられる。今後も外需の持ち直しにともない、輸出は緩やかな回復が続くだろう。

実質GDP成長率



輸出金額(貿易統計)



ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)調査部 井口 るり子

TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー